

2021 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	木村 茂喜	職名	准教授	学位	修士 (法学) (九州大学 1997 年)
----	-------	----	-----	----	-----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
社会保障法	社会福祉、責任、児童の権利、犯罪をした者、自立支援

研 究 課 題
福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 犯罪をした者に対する社会復帰・自立支援と社会保障のあり方

担 当 授 業 科 目
法学(前期) (看護学科) 法学(前期) (福祉学科) 法学(前期) (栄養学科) 日本国憲法(後期) (看護学科) 日本国憲法(後期) (福祉学科) 日本国憲法(後期) (栄養学科) 社会保障論(通年) 公的扶助論(前期) 司法福祉論(前期) 権利擁護論(後期) 初年次セミナーI(前期) 初年次セミナーII(後期) 専門研究 I(通年) 社会福祉特講 II (集中)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【社会保障論・公的扶助論・司法福祉論】これら科目について、2021 年度も 2020 年度に引き続きすべて遠隔授業で行うことになったことに伴い、以下の工夫を行った。</p> <p>①配布レジュメ・資料を講義前日までに Google Classroom に.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が事前にダウンロードすることを可能にした。対面授業の配布レジュメではキーワードや重要な語句を学生に書き込ませていたが、遠隔授業の配布レジュメについては、学生の通信環境が不安定になるおそれがあることを想定して、キーワードや重要な語句はあらかじめレジュメに記載した。</p> <p>②講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表等を多用して講義を行った。また、スマホで講義を受けている学生がいることを想定して、文字の小さな図表の使用は極力避けた上で、スライドの文字を対面授業より大きめのポイントで作成した。</p> <p>③講義時間が 100 分となったことに加え、パソコン・スマホの画面を長時間見ることによる疲労を考慮して、途中 10~15 分程度の休憩を入れた。</p> <p>④講義内容の理解度の確認のため、講義途中(休憩前)と講義終了後の 2 回、Google Form を使った確認テストを実施した。確認テストは出席確認に用いたほか、成績評価に加えた。</p> <p>⑤講義終了後、出席確認と学生の理解度の確認を兼ねて、Google Classroom を用いて、学生からの講義内容に関する感想・質問を回収し、質問等への回答および意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。</p>

<p>授業科目名【法学・日本国憲法・権利擁護論】これら科目について、2021年度は一部を除いて対面授業で行い、以下の工夫を行った。</p> <p>①配布レジュメ・資料を講義前日までに Google Classroom に.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が事前にダウンロードすることを可能にした。講義当日にレジュメ・資料を配布する際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。</p> <p>②講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。</p> <p>③講義時間が 100 分となったことで、学生の集中力維持のため、途中 10 分程度の休憩を入れた。</p> <p>④講義内容の理解度の確認のため、講義途中（休憩前）と講義終了後の 2 回、Google Form を使い、学生はスマホを用いて解答する確認テストを実施した。確認テストの結果は、成績評価に加えた。</p> <p>⑤講義終了後、コメントカード兼用のマークシート式出席カードを用いて、学生からの講義内容に関する感想・質問を回収し、質問等への回答および意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。学生からの質問・意見等については、「授業貢献度」として成績評価に加えた。</p>
<p>授業科目名【法学】講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉・栄養の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。</p>
<p>授業科目名【日本国憲法】抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介するほか、とりわけ女性・性的マイノリティに対する差別の現状と憲法上の論点について重点的に講義を行い、学生の理解の一助に努めた。</p>
<p>授業科目名【社会保障論】非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、試験を 2 回（前期末・後期末）行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。</p>
<p>授業科目名【公的扶助論】最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。</p> <p>生活保護の申請拒否・保護の廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。</p>
<p>授業科目名【司法福祉論】2024 年度より改定される社会福祉士国家試験の試験科目である「刑事司法と福祉」の内容を踏まえ、犯罪と刑罰制度、施設内処遇・社会内処遇、医療観察制度、高齢・障害者による犯罪と福祉、犯罪被害者等支援など、幅広い内容で講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。</p>
<p>授業科目名【権利擁護論】成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。確認テストについては、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して出題し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。</p>
<p>授業科目名【初年次セミナーⅠ・初年次セミナーⅡ】1 年生を対象に、大学での「学び方」を学ぶ授業である。「初年次セミナーⅠ」では、「調べる」ことと「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。</p> <p>「初年次セミナーⅡ」では、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、1 クラスを 3 グループに分けて「ディベート」を行った。</p>
<p>授業科目名【専門研究Ⅰ】菊池馨実『社会保障再考—（地域）で支える』（岩波書店、2019 年）を講読し、現行の社会保障制度が抱える問題点やその解決方法としての相談支援と地域の再構築のあり方について、学生と積極的な議論を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009年10月～2017年3月) 企画委員(2018年10月～現在に至る)	1995年12月～現在に至る
日本労働法学会		1998年5月～現在に至る
日本司法福祉学会		2008年8月～現在に至る
日本更生保護学会		2012年12月～現在に至る
日本障害法学会		2016年12月～現在に至る
九州社会法研究会	事務局員(会計監査担当)(2013年4月～2014年3月)	1995年4月～現在に至る
社会法判例研究会		1995年4月～現在に至る

2021年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 「犯罪をした知的障がい者の自立支援と社会保障法」	単著	2021年12月	日本社会保障法学会編「社会保障法」37号 (法律文化社)	①犯罪をした知的障がい者が社会復帰し、自立するための支援を受ける権利について考察し、伴走型支援と多機関連携を中心に、犯罪をした知的障がい者の自立支援のために求められる法政策の方向性および自立支援のあり方について検討する。 ②163-174頁
(翻訳)				
(学会発表) 「犯罪をした知的障がい者の自立支援と社会保障法」	単独	2021年5月	日本社会保障法学会第76回大会 (Zoomによるオンライン開催)	①犯罪をした知的障がい者が社会復帰し、自立するための支援を受ける権利について考察し、伴走型支援と多機関連携を中心に、犯罪をした知的障がい者の自立支援のために求められる法政策の方向性および自立支援のあり方について検討する。

2021年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				②日本社会保障法学会編「社会保障法」37号163-174頁（学術論文として掲載）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
「犯罪行為者の社会復帰と自立支援法理の構築」	日本学術振興会	1,200,000	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
放送大学 総合科目「社会福祉と法(20)」第8回～第10回	印刷教材執筆担当講師・放送教材担当講師	2020年4月～2024年3月

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
西南女学院大学生生活協同組合 理事長 2021年6月1日～2022年5月31日 図書委員会 委員 2020年4月1日～2022年3月31日 フォークソング部 顧問 KOIKOI 顧問